

広島市立藤の木小学校「学びのイノベーション事業」報告

広島市立藤の木小学校

- ・広島市の西北・団地
- ・創立26年
- ・児童数 223名・教職員数29名・10学級
(平成27年6月1日現在)



フューチャースクール実証研究事業 総務省 H22～H24

ICT機器を使ったネットワーク環境を活用した協働教育の実証研究

学びのイノベーション事業 文部科学省 H23～H25

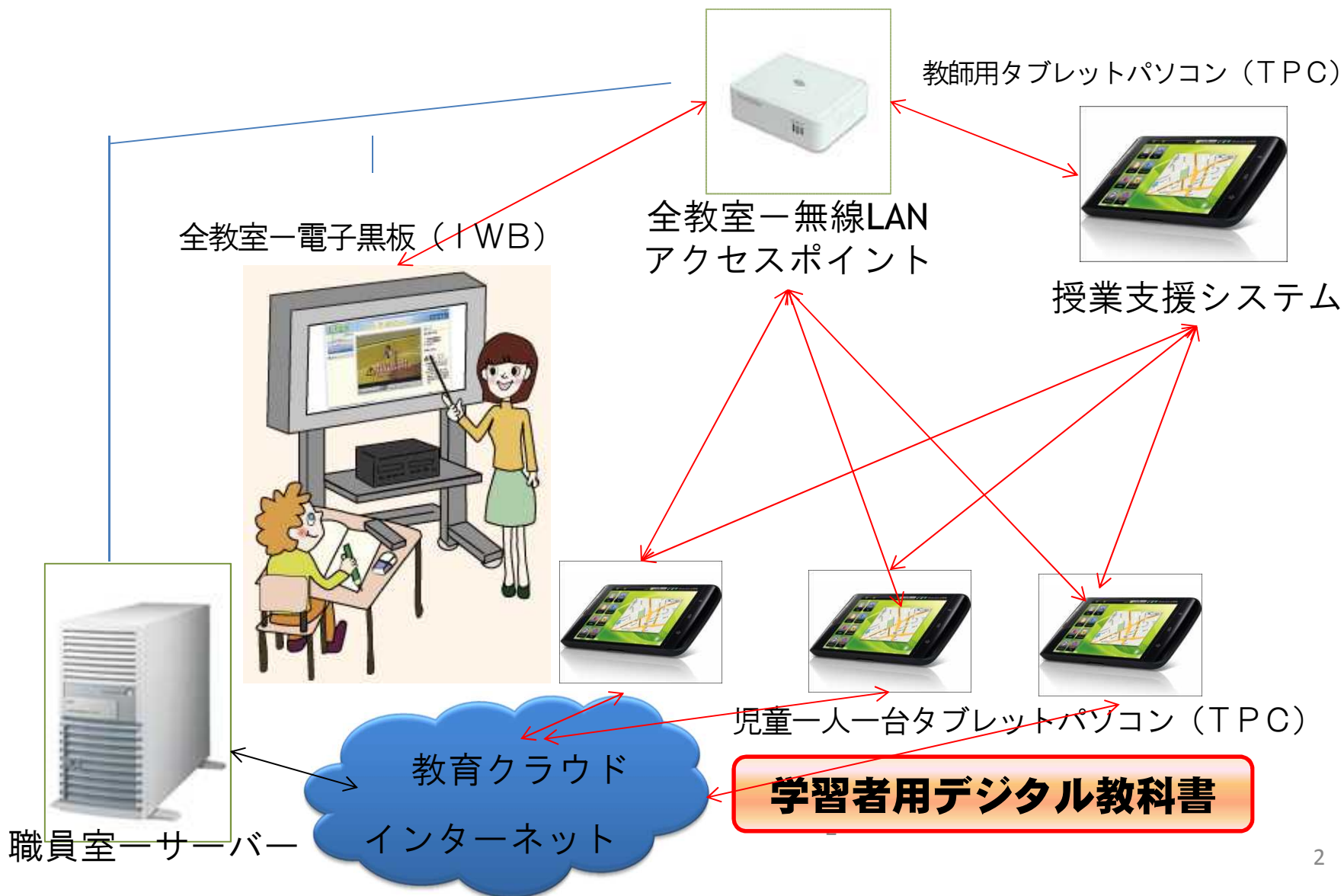
学習者用デジタル教科書を活用した21世紀にふさわしい学びの創造

学力向上推進事業 広島市教育委員会 H26・H27

ICTを活用した授業改善の推進

広島市立藤の木小学校 校長 島本 圭子

1 藤の木小学校のICT環境



本校の電子黒板 (IWB)



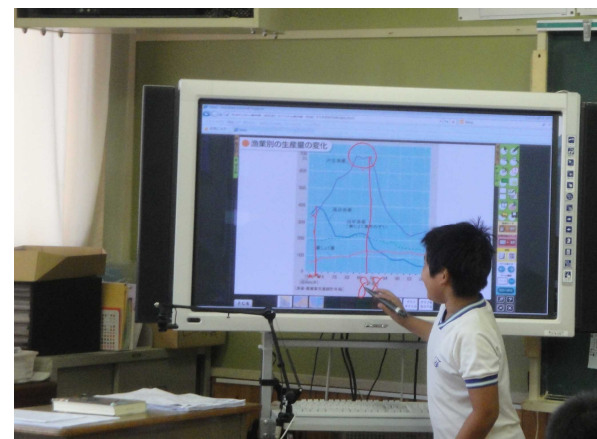
実物の拡大提示

デジタル教材(フラッシュ型教材・教師用デジタル教科書・写真等)の拡大提示

実物投影機と併用



児童のTPC画面がそのまま映る



児童が書き込みながら説明

タブレットパソコン(TPC)と連動

本校のタブレットパソコン(TPC)



個別学習



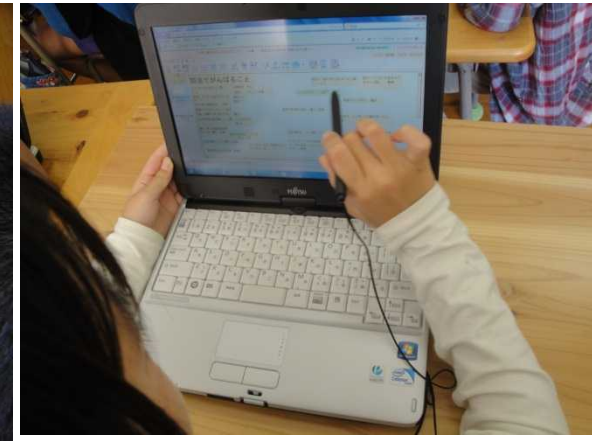
協働学習



デジタル学習材:ワークシート操作・
書込



デジタル学習材:動画・写真閲覧



インターネットでコンテンツ利用

※ 学習者用デジタル教科書には全ての機能が含まれている。

2 一人一台端末活用のための基本的考え方

指導者側－教員

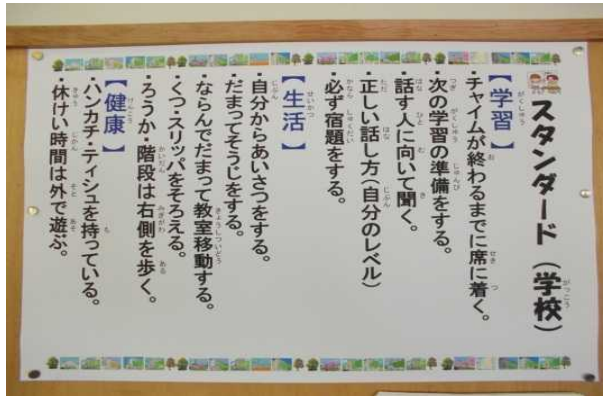
全ての学級で、全ての教員が、指導の道具として、授業過程に適切に位置付けて活用すること

学習者側－児童

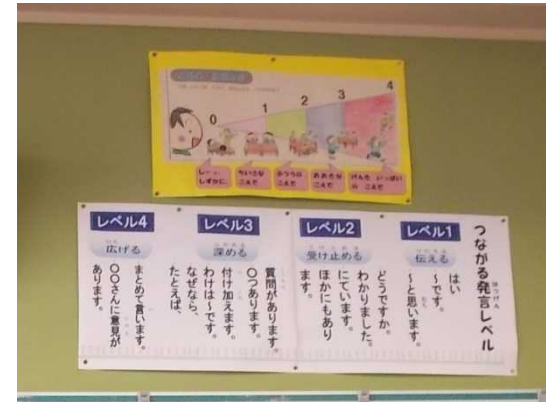
全ての児童が、学習道具として適切な使い方を身に付け、授業で活用すること

(1) 児童への指導

① 学習規律を整えるー統一した指導



学びのスタンダード



つながる発言レベル

② TPCの使い方の指導ー使い方の統一



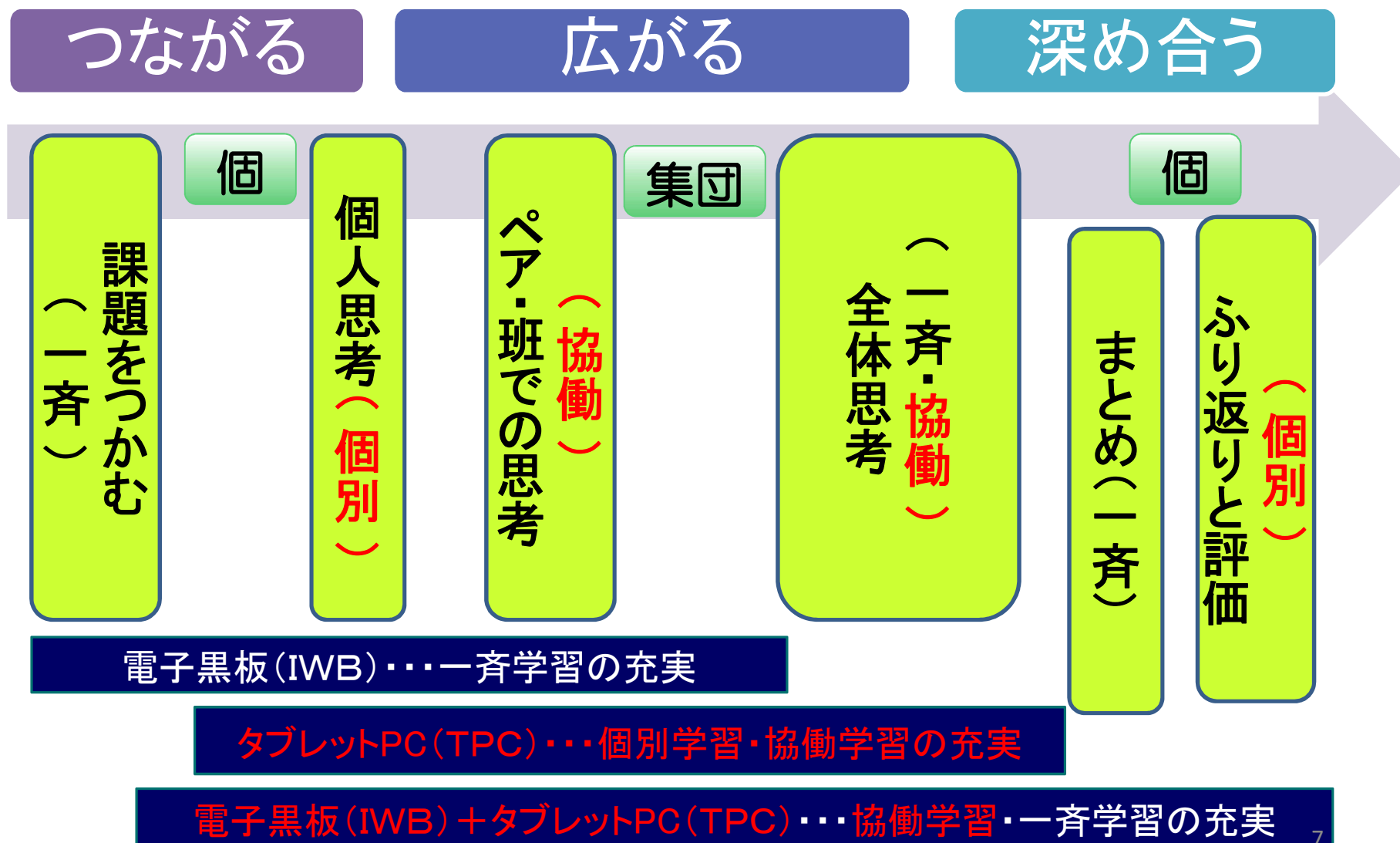
指導資料の作成



タブレット開き

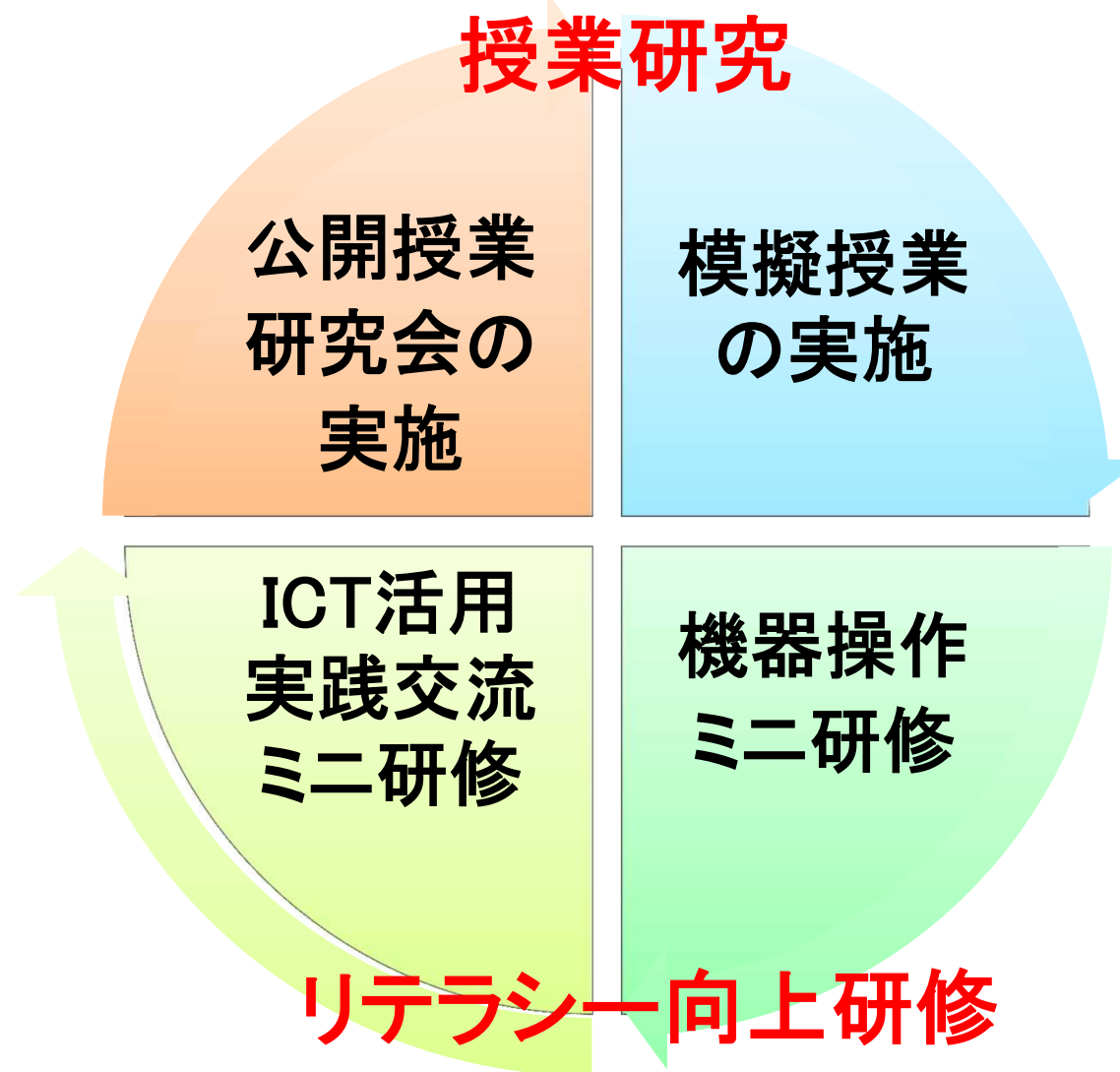
(2) 指導者側の取組

① ICT活用を位置付けた授業過程モデルの共有



(2) 指導者側の取組

② 授業におけるICTの活用のための研修

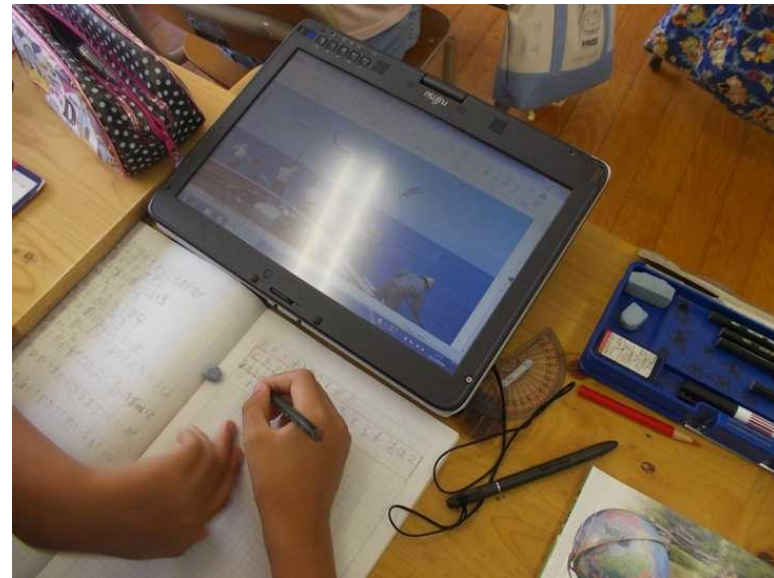


3 日常の実践

(1) 黒板とIWB・ノートとTPCの併用は当たり前

指導者：IWBに課題資料の提示

指導者：黒板に「めあて」の提示



児童：TPCに配布された資料を見て
気づきをノートに書く—個別学習の充実

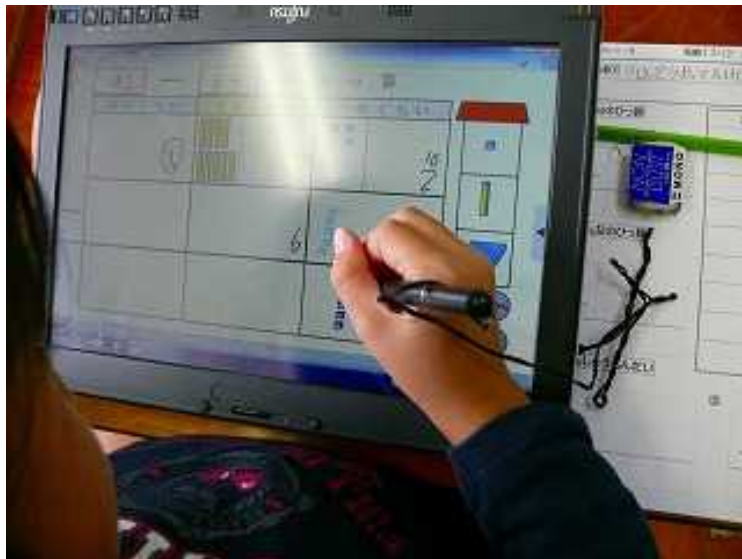
3 日常の実践

(2) デジタル学習材の作成・活用が進む



2年生 ひき算のひっ算

児童：TPCに配布されたデジタル
ワークシートで計算の仕方を考える
— 個別学習の充実



児童：IWBを使って自分の考えを説
明する
— 協働学習の充実



4 成果

(1) 一人一台端末活用の効果

○ 個別学習の充実

- ・多様な資料の閲覧が可能(絵図・写真・動画・音・インターネットコンテンツ等)
- ・一人一人の試行錯誤を伴う操作活動が確実に可能(デジタルワークシート等)
- ・以上のデジタル学習材を有する学習者用デジタル教科書は、指導者の教材でなく児童の学習材として有効

○ 協働学習の充実

- ・IWBとTPCの連動により、個々のデータを瞬時に共有できる。

4 成果

(2) 指導者

- 授業の充実、特に個別学習の充実に役立てることができた。それにより、児童が意欲的に学習に取り組んだ。

(3) 児童

- しっかり考える力、相手に分かるように説明する力が伸びた。
- TPCを学習道具として適切に扱うことが当たり前となった。

5 今後に向けて

- 授業におけるICT活用の段階を踏まえたICT環境と活用支援体制(支援員配置等含む)の整備
- 指導者の授業におけるICT活用指導力の向上のための計画的な研修実施
- 児童のためのデジタル学習材(デジタル教科書含む)の系統性のある整備
例えば、効果のある単元について、デジタル教科書を作成しカリキュラムに位置付け、校内のコンピュータ教室(デジタル学習ルーム)で授業を行うことは実現可能